



Illust. : Ohisuka Ichio

【 Trans-Door 】



I | n | t | e | r | F | e | e | l | D | e | s | i | g | n |

インターフィール・デザイン

「ゲップ現象」の怪

「ゴホゴホ……ゲホゲホッ……オエッ」
僕の肩をもみ始めてから1分と経たないうちに、息苦しそうな嗚咽を始めた。「どうしたの？ おいおい大丈夫かいミッチー？」と、突然のできごとに思わずうしろを振り返った。「ゲホッ……大丈夫、人の肩をもんであげるといつもゲップがでるのよ」と彼女。「えっ？ なんて？ それって肩もみと何か関係あるの？」と突っ込むと、こんな答えが返ってきた。どうやら彼女はいわゆる靈感体質らしく、小さいころから予知夢を見てきた。近所の人や親戚が死ぬ夢を見ると、翌朝それが現実となっていたり、幼少の時に亡くなった祖母が夢でアドバイスしたおかげで、台所の火事を発見したりといったことがあったらしい。マッサージも彼女の霊的な能力らしく、かつて肩こりのひどい友人の肩をもんであげたところ、とても楽にしてあげられたという経験があり、つらそうな人には試してあげているという。彼女には数人の霊能者の知り合い

がいるというが、不思議なことにその知り合いも同様に、他人のマッサージをすると嗚咽するというのだ。聞けば聞くほど、彼女の役割は患部から悪い気を吸い上げて、体内でなんらかの情報翻訳を施し、ゲップとして外に排出する循環メディアなのではないかと思えてくる。

ゲップがひらくトランスドア

鬼オスティーヴン・キング原作の映画『グリーンマイル』(1)に登場する「ゲップ現象」は、この作品に重要な深みと広がりをもたらしている。トム・ハンクス演じる死刑囚舎房所長のもとに少女殺しの罪で入所してくる黒人の大男、ジョン・コーフィー(マイケル・クラーク・ダンカン)には、人の病を治癒させる不思議な能力が備わっていた。彼にはある種の超能力があるらしく、病人の患部に触れることで病の気を抜き取り、その後激しく咳き込んだかと思うと、ゲップとともに空中に吐き出してしまうのだ。この「ゲップ現象」が私たちの日常である「この世」

と非日常である「あの世」という2つの情報領域をつなぐトランスドアとして機能し、観る者のイマジネーションを強力に拡張する。処刑を目前に控える死刑囚舎房の日常が「ゲップ現象」という情報翻訳装置を使うことで生命の神秘とつながれ、観客を超日常の世界に誘う効果を最大化しているのだ。

サイコホラーの帝王でもあるキングはこの小説を書き下ろすときに、サイキック(2)と呼ばれる人たちの生の声を聞いていたに違いない。彼はこの現象を、私たちの日常世界と想像的非日常世界を結ぶイメージを広げる効果をもつ情報ドアとして利用し、2つの世界をつなぐことで、私たちのイマジネーションを広げる情報デザインに成功している。

あの世とこの世をつなぐ

「いたこ」とは 津軽地方で活動する巫女さんのことで、その昔は盲目の女性が多く、「口寄せ」という亡くなった人(ほとけ)の言



photo: Naritoh Tadayuki

I | n | t | e | r | F | e | e | l | D | e | s | i | g | n |

インターフィール・デザイン

葉を伝える霊媒といわれる人たちの総称だ。「いたこ」は依頼者の望む死者の霊を自分に憑依させ、この世とあの世をつなぐ媒体となることで両者の会話を可能にする情報翻訳者だ。今もなお彼女たちが存在する理由は、先立たれた人の死者に対する悲しみを軽減する鏡のような存在、つまりセラピストとしての役割を果たしてきたからだろう。

前回話した「コミュニケーションとは相手に居場所を提供すること」という角度から見ると、「いたこ」とは依頼者と死者をつなぎ、互いに必要とし必要とされているという実感を伴う関係性を構築するために必要な翻訳者ということになる。彼女たちは、人と死者との間にアーティフィシャルな関係性をデザインすることで、両者の共感を可能にする。霊媒者のTrance(憑依)のメカニズムやサイキック能力の真偽は別にして、インターフィールデザインが目にするキーワードはこのTrans(横断する)という言葉だ。

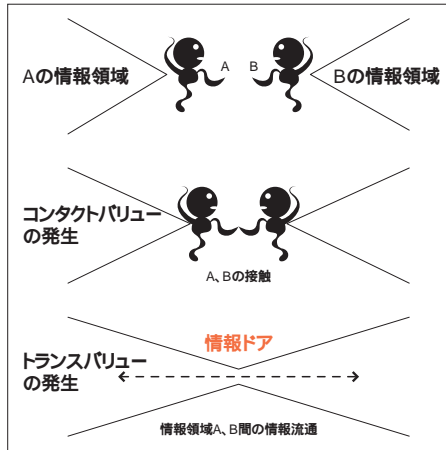
ミクロとマクロをつなぐ

京都は銀閣寺の庭にある「向月台」も私たちの日常と非日常という2つの情報領域をトランスするための情報ドアの例として挙げられる。庭の中央に設置されている、砂で固められた円錐形の台は先端が削り取られていて、私たちの想像力を喚起する。それは私たちの脳がパターン認識を行っているために、通常なら「ある」べき円錐形の突端がそこに「ない」ことで緊急の意識を発生させる。騒音のなかで眠る猫は、音がなくなったとたん、異変に気付いて目を覚ます。このように、「なぜあるべきはずのものがいないのか?」という疑問は、その台は何かを載せることができるように創られているのではないかという推測につながる。

向月台は1年のうちのある時期に、ある視点から見ると、月がその台の上にくるようデザインされている。つまり、この台は月を載せて愛でるために用意されたステージなのだ。日本には昔から「借景」(3)と

いう概念があるが、この向月台もその1つであると言える。借景とは情報デザインの手法で言うと空間のコラージュだ。たとえば家を造る予定地から見事な富士山が見えたとすると、この景色を家に居ながら見えるようにしたいと思うのが人間の欲望だ。借景はこの欲望の実現をより進化させた情報デザインの方法なのだ。自分の家というアーティフィシャルなもの、遠方にある大自然のシンボルである富士山をシームレスに、まるで一体に見えるように庭をインターフェイスとしてうまく作れば借景は完成し、家も自然の一部となる感覚を楽しむことができる。

では「向月台」は何をつなぐための情報ドアなのだろうか。禅の庭はお茶と同じくさまざまな自然のシンボルを限定された空間に配置することでその外の世界を知る装置として造られている。庭師はそこに設置する石や木に対して「君はどこに置きたい?」と1つ1つていねいに聞きながら庭を造るという。この対話的なプロセスが



I | n | t | e | r | F | e | e | l | D | e | s | i | g | n |

インターフィール・デザイン

ら庭師ができるだけ自然に近い形で庭を構成しようとする態度をうかがい知ることができる。それは、私たちを取り囲む大自然を縮小することで、ふだんは気のつかない変化を把握できやすくするというところでもある。

「向月台」は、庭というマイクロコスモスと、宇宙というマクロコスモスをつなぐトランスドアとして機能する。日常の既成観念にがんじがらめになっている私たち人間が、自然の一部であるということを思い出させてくれる装置なのだ。

コンタクトとトランス

ネット社会の中で私たちの創造できる新たな価値とは何だろうか？ それは、「コンタクトバリュー」と「トランスバリュー」という2つの価値に大別されると考えている。「コンタクト」とは、情報と情報の接触を意味し、「トランス」とは、ある情報から別の情報フォーマットへの翻訳を意味するワードとして使っている。「コンタクトバリュー」とは、

これまで出会うことのなかった人や情報が、インターネットを通して接触できるようになることで創発する新たな価値だ。また、「トランスバリュー」とは、コンタクトすることによって出会った人や情報がトランスデュース(情報翻訳)されて生まれる価値である。接触する2つの情報領域が開口し、相互に情報が流通することによって価値が創発するのだ。このトランスバリューを生むために重要な情報翻訳装置こそ、トランスドアの正体なのだ。

今日の結論。

異なる情報領域をつなぐ「トランスドア」を開け!

ネット社会の新たなビジネスを創造することは新たな価値創造にほかならない。そのために重要なテクニックこそ、未知の情報間のコンタクトとその領域がつながれて情報が流通するためのトランスデュース: 情報翻訳なのだ。

Think Favorite!

編注:

- (*1)グリーンマイル: 原題“ GREEN MILE ”、1999年、アメリカ。監督フランク・ダラボン。大恐慌時代のアメリカ南部を舞台とした映画。ヒーリング能力を持つ死刑囚の監獄での生活を中心に、生と死をテーマとした物語が展開される。
- (*2)サイキック(psychic)超能力者、または心霊現象の霊媒となる人。
- (*3)借景(しゃつかい)庭園の内部の木々や建物のほか、山などの外の自然などを遠景に加えて庭園の景観を構成すること。



photo: Nakamura Tatsu (nermasai)

七瀬至映 Nanase Yukiteru
クリエイティブディレクター&プロデューサー。情報を受発信する個人が主役となる時代のコミュニケーションの可能性をテーマに、マルチな活動を続ける。近著に『クリアロン - 創造性遺伝子』。インターネット社会の新たな価値創造の方法に迫る『サクセス・バリュー・ワークショップ』(いずれも発行: デジタルハリウッド出版局)がある。
「あなたの情報デザインテクニック投稿大歓迎!」
mailto:yukiteru@creatron.net



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp